

ミニ・ディスクロージャー誌

2018年3月期 営業の中間ご報告

2017



**WITH YOUR
CHALLENGE** 

応援したい。挑戦するすべての人を。

イメージキャラクター

鈴木愛理

Contents

- 1 千葉銀行のプロフィール
 - 2 頭取メッセージ
 - 5 中期経営計画
「ベストバンク2020 Final Stage
－価値共創の3年」
 - 6 TOPICS① フィンテック&地方創生の取り組み
 - 7 TOPICS② ダイバーシティの推進
 - 8 TOPICS③ 本部棟の建替えを発表
 - 9 特集 店舗ネットワークの拡充
 - 11 特集 戦略的アライアンスの推進
 - 13 ちばぎんグループのESGへの取り組み
 - 15 株式の状況
 - 16 ちばぎんグループのご紹介
 - 17 2017年9月期 業績のご報告
 - 19 中間連結財務諸表(要約版)
 - 21 中間単体財務諸表(要約版)
- 裏表紙** ちばぎんネットワーク

千葉銀行のプロフィール(2017年9月30日現在)

設 拠	立 点	1943(昭和18)年3月 国内 181店舗(本支店158、特別出張所5、出張所15、仮想店舗3) 両替出張所 3か所 店舗外現金自動設備 47,920か所 (うちイーネットとの提携による共同ATM13,266か所、セブン銀行との提携による共同ATM 22,175か所、ローソンとの提携による共同ATM 12,194か所) 海外 3店舗(ニューヨーク、香港、ロンドン) 3駐在員事務所(上海、シンガポール、バンコク)
従 業 員 数	4,468人	
総 資 産	13兆9,388億円	
預 金	11兆5,883億円	
貸 出 金	9兆5,674億円	
資 本 金	1,450億円	
発行済株式数	875,521千株	
総自己資本比率	連結13.36% 単体12.80%	

※諸計数は原則として単位未満を切り捨てのうえ表示しています。



当行が契約している銀行法上の指定紛争解決機関

一般社団法人全国銀行協会

連絡先 全国銀行協会相談室 電話番号 0570-017109 または 03-5252-3772



ちばぎんをもっと近くに、もっと便利に。

ちばぎんとお客さまを結び
身近な窓口のご紹介です。

※こちらのQRコードを読み込んでください。

ちばぎんアプリ



LINE



Facebook



いつでも地域のお客さまの 伴走者であり続けたい

取締役頭取

佐久間 英利



順調なスタートを切った 中期経営計画

地域のお客さまとの「価値共創」を掲げ4月にスタートした第13次中期経営計画「ベストバンク2020 Final Stage -価値共創の3年」は、主要課題を中心とした様々な施策にスピード感をもって取り組んでおり、順調なスタートを切ることができました。

法人部門においては、事業性評価に基づく融資が浸透するとともに、アライアンス行との連携によるシンジケート・ローンの組成といった新たな

金融支援のかたちが生まれているほか、事業承継問題に対するソリューション提供やビジネスマッチングなどの本業支援にこれまで以上に力を入れています。こうした取組みの状況については、「金融仲介機能のベンチマーク」を活用し、10月に最新の情報をホームページで公表しております。

個人部門においては、資産運用業務における「『お客さま本位』の業務運営（フィデューシャリー・デューティー）に関する方針」を策定し、お客さまのニーズに合った最適な商品・サービスの提供に努めています。また、

10月には、千葉市と船橋市のコンサルティングプラザ内に、ほけんの窓口グループ株式会社との提携による保険ショップ「ほけんの窓口@ちばぎん」をオープンさせたほか、相続関連業務においても10月より遺言代用信託の全店受付を開始するなど、お客さまとの接点拡大を図っています。

一方で、ITの活用や働き方改革による徹底した業務効率化にも取り組んでいます。業務用スマートフォンや新型タブレットを導入し、場所にとらわれずタイムリーなご提案やお手続きが可能となったほか、行内においても、ワークフローやチャットの導入によるペーパーレス化を進めています。

2017年9月期の業績

当中間期は、貸出金平残は前年同期比5,534億円増加の9兆4,356億円、預金平残は前年同期比4,823億円増加の11兆5,783億円と、貸出金・預金とも順調に増加しました。

損益については、当中間期の連結経常利益は前年同期比12億円増加の449億円、親会社株主に帰属する中間純利益は前年同期比14億円増加の315億円となりました。また、連結総自己資本比率は13.36%と、引き続き高い水準を維持しています。

なお、中期経営計画では2020年3月期に目標とする指標として、親会社株主に帰属する当期純利益や連結ROEなど6つの計数目標を掲げています。「リテール・ベストバンク」グループの実現に向けた総仕上げと位置付け、主要課題に対する取組みなどをつうじて、掲げた計数目標を達成してまいります。

深化するアライアンス戦略

新たな地銀連携モデルとして「千葉・武蔵野アライアンス」と「TSUBASA金融システム高度化アライアンス(TSUBASAアライアンス)」を推進していますが、アライアンスの考え方がお客さまや役職員一人ひとりに浸透するにつれ、成果や実績が加速度的に積み上がってきています。

「千葉・武蔵野アライアンス」では、証券子会社のちばぎん証券株式会社による証券仲介業務を一層強化すべく、8月以降、ちばぎん証券「さいたま営業部」「浦和支店」をそれぞれオープンさせました。法人部門でも、10月に共同で事業承継ファンドを設立したほか、都内を中心にお客さまの相互紹介が定着したことで、シンジケート・ローン組成などの成果に結び付いています。

また、「千葉・武蔵野アライアンス

心得」として、「地域のお客さまを第一に」、「信頼」と「尊重」、「スピーディな協業」を制定しました。

「TSUBASAアライアンス」では、共同出資会社のT&Iイノベーションセンター株式会社を中心となって、外部のフィンテック事業者とのデータ連携を可能とするAPI共通基盤の開発に着手しました。2018年春に稼働を予定している「TSUBASA FinTech 共通基盤」は、地方銀行では最も先進的な取組みであり、将来的にはTSUBASAアライアンス行以外の金融機関にも開放していく計画です。

また、10月には6行による顧客紹介制度もスタートしています。自行のお客さまのニーズに応じて他のTSUBASAアライアンス行や取引先等を紹介するもので、協調融資などの金融支援のほか、ビジネスマッチングなどの本業支援に積極的に取り組んでいます。

この他にも、グループ会社のちばぎんアセットマネジメント株式会社が組成した投資信託の販売を東邦銀行と北洋銀行で開始したほか、相続関連業務における提携も拡大しています。

こうしたアライアンスの考え方や取組みの成果について、各方面から高い評価をいただいています。また、各行においてもアライアンスの戦略上の重要度が増し、これがさらなる連携強

化につながるという好循環を生み出し、確かな手応えを感じています。

地域のお客さまに 選ばれる銀行へ

当行は千葉県という恵まれたマーケットを地盤に、首都圏において持続的にシェアを拡大しており、資金利益・役務利益とも地銀最高水準を維持しています。しかしながら、マイナス金利の影響や中長期的な人口減少による地域経済の縮小など、当行を取り巻く外部環境は今後さらに厳しくなっていくものと予想されます。

そのため、「次世代営業店モデルの導入」「融資・ローン業務の効率化」「働き方改革」など、あらゆる面で抜本的な業務改革に取り組み、高い生産性を実現してまいります。

当行は、2020年に目指す姿として、先進的なサービスで地域のお客さまに最高の満足と感動を提供する「リテール・ベストバンク」グループを掲げています。

グループ役職員が一丸となり、今後も、お客さま、株主の皆さま、地域社会の皆さまなど多様なステークホルダーのご期待にお応えできるよう最大限の努力を尽くしてまいります。一層のご愛顧を賜りますようお願い申し上げます。

第13次中期経営計画

ベストバンク 2020
Final Stage-価値共創の3年

2017.4.1~2020.3.31



目指す姿

- 本中期経営計画は、前中期経営計画から掲げている2020年の目標である「リテール・ベストバンク」グループをつくりあげる総仕上げの3年 (Final Stage) です。
- 「お客さま」「株主」「従業員」「地域社会」など多様なステークホルダーとともに共通価値を創造 (価値共創) することで、先進的かつ高い生産性と揺るぎない信頼を確立し、地域とともに持続的な成長を実現していきます。

主要課題

お客さまとの共通価値の創造

- 取引先企業の経営課題解決や「お客さま本位」の業務運営 (フィデューシャリー・デューティー) の徹底により、お客さまにとってさらに価値ある商品・サービスを提供します
- デジタル化に対応した先進的で付加価値の高いサービスを提供します

全ての職員が輝く働き方改革の実現

- ダイバーシティを一層推進し、性別・年齢問わず全ての職員が輝ける組織を実現します
- 職員一人ひとりの働き方を見直し、付加価値の高い業務に特化できる態勢を構築します

持続的成長に向けた経営態勢の強化

- 「千葉・武蔵野アライアンス」や「TSUBASA金融システム高度化アライアンス」など、他行との連携を一層強化します
- 業務プロセスを抜本的に見直すことでローコストオペレーションを実現します

2020年3月期に目標とする指標

親会社株主に帰属する
当期純利益
600億円

(2017年3月期 527億円)

連結ROE*
7%台

(2017年3月期 6.86%)

※連結ROE=親会社株主に帰属する当期純利益÷株主資本合計

連結普通株式等
Tier1比率
12%台

(2017年3月期 12.65%)

貸出金残高
10兆5,000億円

(2017年3月期 9兆3,053億円)

預金残高
12兆5,000億円

(2017年3月期 11兆5,657億円)

グループ預かり資産残高
2兆5,000億円

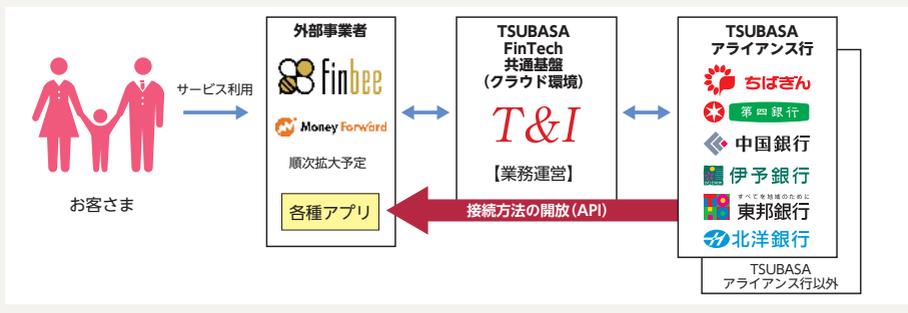
(2017年3月期 2兆126億円)

フィンテック オープンAPIに対応した共通基盤の開発に着手！

TSUBASAアライアンス行とT&Iイノベーションセンター株式会社、日本アイ・ビー・エム株式会社と共同で進めているAPI共通基盤構築プロジェクトにおいて、10月より「TSUBASA FinTech共通基盤」の開発に着手しました。

安全性を確保した認証方法により、インターネットバンキング契約のないお客さまでも各種のAPIとデータ連携することができ、安心してフィンテックサービスをご利用いただけるようになります。

第一弾として、2018年春に株式会社ネストエッグの自動貯金サービス「finbee（フィンビー）」と株式会社マネーフォワードの自動家計簿サービス「Money Forward（マネーフォワード）」の提供を予定しています。



地方創生 千葉県地方創生に関するレポート(第3弾)を公表&セミナー開催！

グループのシンクタンクであるちばぎん総合研究所に委託し、千葉県内の自治体の現状や地域特性で分けたブロック毎の地方創生のあるべき姿について提言をまとめたレポートを公表しました。

第3弾となる10月のレポートでは、自治体毎の2045年までの将来人口推計と千葉ブランド力調査の結果のほか、将来の人口変動を見据えたブロック毎の今後の地方創生のあり方などについて提言を行っています。

また、このレポートを基にした自治体職員向けのセミナーには129名が参加されました。



佐久間頭取が「輝く女性の活躍を加速するちばのリーダーの会」へ参加！

2017年6月、千葉県における女性活躍推進の取組みのレベルを引き上げ、その裾野を広げていくため、産・官・学のリーダー7名参加のもと、「輝く女性の活躍を加速するちばのリーダーの会」が発足し、あわせて「行動宣言」を策定・公表しました。当行の佐久間頭取が発足の呼び掛けを行い、「行動宣言」の策定にも参画しています。



輝く女性の活躍を加速するちばのリーダーの会 「行動宣言」

私たちが、ちばのリーダーは、様々な女性の活躍を高め、その質でもっとも最大限発揮できるように、以下の取組みを行うことをここに宣言します。

【もともとし、加速する】

- 私たちが、ちばの女性活躍推進に関する目標を自身で定め、達成に向けた取組みを進め、その進捗状況を定期的に把握し、状況変化を適切に対応します。
- 私たちが、「女性の活躍が促進されることによって社会が豊かになる」という思い、自らの産業で他社以上に発信します。
- 私たちが、組織の質を向上させることにより高い価値を生みだすことを目指し、ちばの管理職の活躍を促進します。
- 私たちが関与するあらゆる機会に女性が多参加していることを確認し、その重要性を訴えています。

【また促進する】

- 私たちが、積極的な人材発掘、育成を推進し、活用することで、ちばの女性の活躍を支えています。また、そのための組織の改善を行います。
- 私たちが、よりよい企業文化の醸成や人材育成の推進などを通じて、女性の活躍を促進する取組に取り組むとともに、男女の働き方の変革を進めます。
- 私たちが、女性総合的なスキルアップの推進や研修プログラムを通じて、ちばのリーダーが率先的に、成長の機会を積極的に提供し、支援を続けます。
- 私たちが、ちばの社会や女性活躍推進の重要性をより多くの人にリーディングを発信し、女性活躍推進に関する取組が社会に広げられることを目指します。

【ネットワークを築く】

- 私たちが、働く女性や子育てする女性のリーダーネットワークを上げ、成功事例を共有するとともに、自分自身も活躍の場として女性同僚からの一助を求め、連携してまいります。

「プラチナくるみん認定」を取得！

2017年8月、次世代法に基づく子育てサポート特例認定企業として「プラチナくるみん認定」を受けました。今回の認定は、育児休業中の職員とその配偶者を対象とした「職場復帰応援セミナー」の継続開催や「イクメンハンドブック」の作成など、「行動計画」の目標に対する達成状況のほか、特例認定要件を上回る男性職員の育児休業取得率などが評価されたものです。



※「プラチナくるみん認定」とは、次世代法に基づく「行動計画」で定めた目標を達成するなど、子育てサポート企業として認定（くるみん認定）を受けた企業のなかで、より高い水準の取り組みを行った企業に与えられる特例認定制度です。

2020年竣工予定

地域共生のシンボルとして本部棟が新しく生まれかわります。

当行は、築44年が経過した本部棟の建替えを行う方針を決定いたしました。建替えにあたっては、新本部棟を地域社会との共生のシンボルとして位置づけ、大規模災害を想定したBCP（事業継続体制）の強化を図るとともに、地域のお客さまとの交流拠点としても活用してまいります。



当行は、お客さまの利便性向上を図るため、積極的に店舗展開を行っています。

戦略的営業地域における店舗新設-恵比寿支店(2017年7月)

「恵比寿法人営業所」の業務を承継・拡大し、法人のお客さまだけでなく、個人のお客さまのローンや資産運用のご相談にも対応します。

今後も戦略的営業地域と位置付ける東京23区を中心に新店を検討していきます。



恵比寿支店 テープカットの様子

「千葉・武蔵野アライアンス」に基づく

ちばぎん証券「さいたま営業部」(2017年8月)・「浦和支店」(2017年9月)



ちばぎん証券は、武蔵野銀行と金融商品仲介業務の開始にあたり、埼玉県内に「さいたま営業部」(さいたま市大宮区)と「浦和支店」(さいたま市浦和区)を開設しました。

ちばぎん証券は、創業から130年を超える長い歴史を持つ証券会社です。当行との銀証連携で培ったノウハウを活かし、武蔵野銀行のお客さまの幅広い資産運用ニーズにお応えしていきます。なお、2017年12月には草加市、所沢市内にも支店を開設する予定です。

名称	さいたま営業部	浦和支店
所在地	〒330-0854 埼玉県さいたま市大宮区桜木町4-265-1 桜木町ビル1階	〒330-0055 埼玉県さいたま市浦和区東高砂町25-4 (武蔵野銀行浦和支店内2階)
電話番号	048-640-1311	048-813-2001
営業時間	<平日>9:00~15:00	



ちばぎん証券「さいたま営業部」テープカットの様子



ちばぎん証券「浦和支店」テープカットの様子

他業態との提携店舗の開設—ほけんの窓口@ちばぎん 「千葉プラザ店」・「船橋プラザ店」(2017年10月)

全国に600店舗以上展開しているほけんの窓口グループ株式会社との業務提携の一環で、当行のコンサルティングプラザ千葉とコンサルティングプラザ船橋内に保険ショップ「ほけんの窓口@ちばぎん」を開設しました。

「ほけんの窓口@ちばぎん」は、土・日・祝日も営業し、店舗内にはキッズコーナーも設置するなど、お客さまの利便性に配慮したほか、原則予約制とすることでお客さまが安心して、じっくりとご相談いただける環境となっています。

名 称	千葉プラザ店	船橋プラザ店
所 在 地	〒260-0015 千葉市中央区富士見2-3-1 (コンサルティングプラザ千葉内)	〒273-0005 船橋市本町7-12-23 (コンサルティングプラザ船橋内)
電話番号	0120-37-8189	0120-41-4478
営業時間	<平日>10:00~18:00 <土・日・祝日>10:00~17:00 ただし、12月31日~1月3日、5月3日~5月5日は除く	
地 図		



千葉プラザ店 テープカットの様子



千葉プラザ店 窓口の様子

千葉・武蔵野アライアンス

武蔵野銀行との包括提携「千葉・武蔵野アライアンス」では、地域のお客さまの利便性向上や地域社会のさらなる発展のため、さまざまな施策に協働して取り組んでいます。

千葉・武蔵野アライアンスの主な連携施策

商品・サービスの向上

- アセットマネジメント(専用商品の組成)
- シンジケート・ローン共同組成、顧客紹介
- 審査ツール等のノウハウ共有
- 相続関連業務における提携
- 証券ビジネスにおける提携
- 共同ファンドの設立

業務効率化

- サブシステムの共同化
- バックオフィス業務共同化
- ノウハウ共有による業務効率化

その他

- 千葉・武蔵野アライアンス(株)の設立
- 「心得」の制定

顧客向けセミナー

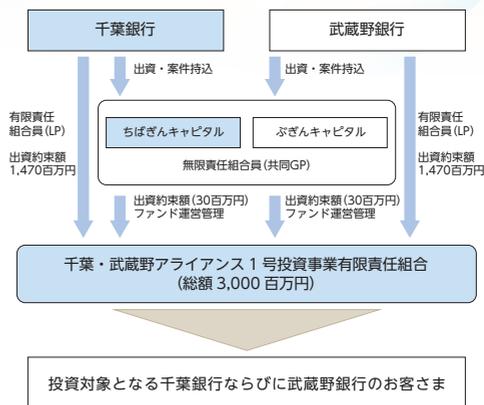
- 業種向けセミナー (医療・環境・海外・M&A等)
- 地方創生関連セミナー等



事業承継ファンド「千葉・武蔵野アライアンス1号ファンド」の設立

2017年10月、ちばぎんキャピタル株式会社および株式会社ぶぎんキャピタルを無限責任組合員とする事業承継ファンド「千葉・武蔵野アライアンス1号投資事業有限責任組合(千葉・武蔵野アライアンス1号ファンド)」を設立しました。

本ファンドは、事業承継ニーズのある両行のお客さまを広く投資対象とし、投資先の円滑な事業承継と企業価値の向上を図っていきます。



TSUBASA金融システム高度化アライアンス

地銀6行が加盟する「TSUBASA金融システム高度化アライアンス」では、フィンテックをはじめさまざまな分野で地域の枠組みを超えた広域での連携を進めています。



基幹系システムの共同化

共同化システム移行状況

■2016年1月 千葉銀行 ■2017年1月 第四銀行 ■2017年5月 中国銀行

■北洋銀行
基幹系システム共同化に関する本格的検討の合意(2017年5月)

相続関連業務における連携

2016年10月



第四銀行



中国銀行

2017年6月



すべてを地域のために
東邦銀行



国際業務における連携

2017年4月にTSUBASAアライアンス各行がお客さまの海外ビジネスに対する支援を目的として、セントラル・パシフィック・バンク(米国ハワイ州)と業務提携を開始しました。

顧客紹介制度の開始

2017年10月より、TSUBASAアライアンス行が自行のお客さまのニーズに基づき、同意を得たうえで他のTSUBASAアライアンス行との新規取引や取引先の紹介などを行う制度がスタートしました。

ちばぎんグループのESGへの取組み

ちばぎんグループでは、ESG(環境・社会・ガバナンス)課題へ積極的に取り組み、持続可能な地域社会の実現に貢献してまいります。



Environment ~環境~

●「グリーンボンド」の共同販売

世界銀行(国際復興開発銀行)発行の「グリーンボンド」(インドルピー建)をTSUBASAアライアンス行のグループ証券子会社*が共同で販売し、当行も金融商品仲介業務(紹介型仲介)の形態で取り扱いました。

世界銀行の「グリーンボンド」は、地球温暖化に苦しむ開発途上国を支援する目的で発行される債券で、その資金は温室効果ガスの排出削減や環境対策など、気候変動問題に取り組む各種プロジェクトへの貸出に活用されます。

*ちばぎん証券、第四証券、中銀証券、いよぎん証券、とうほう証券

●環境ファイナンスの推進

太陽光発電事業など再生可能エネルギーの活用に取り組むお客さまを支援するため、環境保全に関連した融資商品のメニュー拡充や省エネ・ECOセミナーの開催等をつうじて、環境ファイナンスを推進しています。



Social ~社会~



●事業性評価を重視した融資制度の創設

担保や保証に過度に依存せず、事業性評価を重視した融資を推進しています。地域活性化に向け創設した「ちばぎん地方創生融資制度」や「ちばぎん古民家事業支援融資制度」では事業性評価を組み入れており、融資取組み後も事業の進捗に応じた支援を継続して行っています。



●「地方創生私募債(愛称:みらいはぐくみ債)」の取扱い

学校環境の整備等をつうじて地域社会へ貢献していくことを目的に、当行が私募債の発行企業から受け取る引受手数料の一部で教育関連等の物品を購入し、これを発行企業が指定する学校等に寄贈する「地方創生私募債(愛称:みらいはぐくみ債)」を取り扱っています。2017年9月期までの発行額累計は271件/272億円となっています。



Governance ~ガバナンス~

●取締役会

取締役会は、社外取締役3名を含む12名の取締役で構成され、経営方針やその他重要事項を決定するとともに、業務執行の監督を適切に行っています。

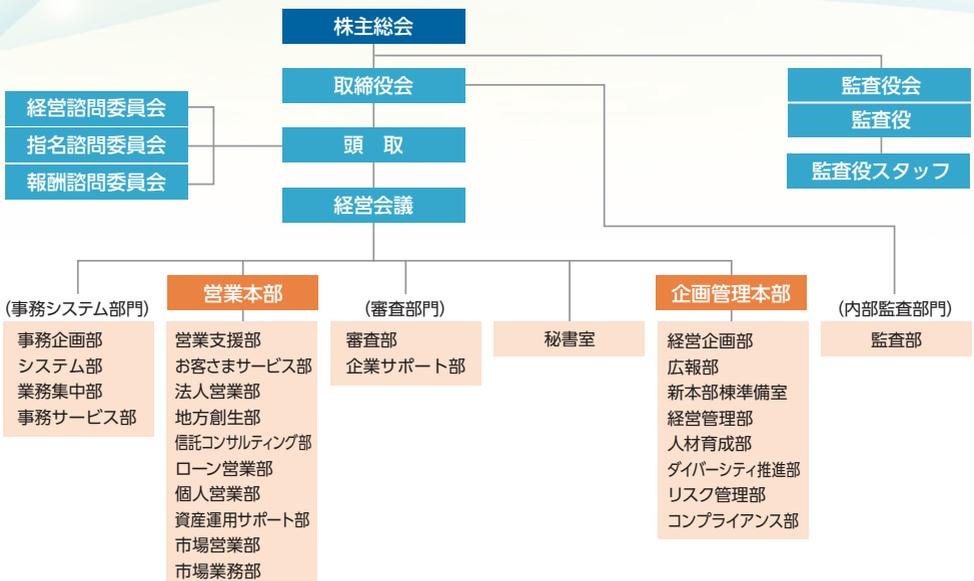
また、中期経営計画など重要な経営議題や取締役候補者の選任および報酬案等については、独立社外取締役がメンバーとなっている経営諮問委員会・指名諮問委員会・報酬諮問委員会にて審議する体制としています。

さらに、年度毎に「取締役会の実効性評価」を実施し、PDCAサイクルにより取締役会のさらなる実効性向上に取り組んでいます。

●監査役会

当行は、5名の監査役のうち過半数の3名を社外監査役とする監査役会設置会社の形態を採用しています。特に社外監査役2名を含む3名の常勤監査役が、取締役会をはじめとする重要会議および重要書類の閲覧等をつうじ、業務執行状況について客観的・合理的な監査を行っており、当行の経営に対する監督機能を十分に果たしています。

■コーポレート・ガバナンス体制図



株式の所有者別状況

2017年9月30日現在

区分	株主数 (人)	所有株式数 (単元)	割合 (%)
政府・地方公共団体	2	9	0.00
金融機関	88	348,216	39.96
金融商品取引業者	38	14,515	1.67
その他の法人	1,116	122,722	14.08
外国法人等	534	197,528	22.66
個人その他	21,532	188,513	21.63
計	23,310	871,503	100.00

- (注) 1. 1単元の株式数は1,000株です。なお、上記の他、単元未満株式は4,018,087株となっております。
 2. 自己株式86,532,613株は「個人その他」に86,532単元、単元未満株式に613株含まれております。なお、自己株式86,532,613株は株主名簿上の株式数であり、期末日現在の実質的な所有株式数は86,531,613株です。
 3. 「その他の法人」の欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が2単元含まれております。

事業年度

毎年4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会

毎年6月

基準日

定時株主総会の議決権：毎年3月31日

期末配当：毎年3月31日

中間配当：毎年9月30日

公告方法

電子公告

(当行ホームページ <http://www.chibabank.co.jp/>)

ただし、電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載いたします。

株式事務取扱場所

株主名簿管理人・事務取扱場所

〒103-8202

東京都中央区日本橋茅場町一丁目2番4号

日本証券代行株式会社 本店

お問い合わせ先 ☎0120-707-843

大株主上位10名

2017年9月30日現在

株主名	所有株式数 (千株)	発行済株式総数に 対する所有株式 数の割合(%)
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社(信託口)	45,369	5.18
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	36,103	4.12
日本生命保険相互会社	26,870	3.06
第一生命保険株式会社	26,230	2.99
損害保険ジャパン日本興亜株式会社	24,537	2.80
明治安田生命保険相互会社	18,291	2.08
住友生命保険相互会社	17,842	2.03
株式会社三菱東京UFJ銀行	17,707	2.02
STATE STREET BANK AND TRUST COMPANY 505223	13,945	1.59
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口5)	13,344	1.52

- (注) 1. 上記の他、株式会社千葉銀行名義の自己株式86,531千株(9.88%)があります(株主名簿上は、株式会社千葉銀行名義となっておりますが、実質的に所有していない株式1千株を除く)。
 2. 所有株式数は千株未満を切り捨てております。
 3. 発行済株式総数に対する所有株式数の割合は小数点第3位以下を切り捨てております。

株主優待制度

対象株主 毎年3月31日現在、1,000株(1単元)
以上保有の株主

株主優待制度の内容

オリジナルカタログ(毎年6月送付予定)より、千葉県の特産品等、当行およびグループ会社が提供する金融商品・サービスの優待*が受けられる株主優待クーポン、TSUBASAアライアンスに参加する地方銀行4行(第四銀行、中国銀行、伊予銀行、東邦銀行)の地元特産品等のいずれかを、保有株数に応じて、お選びいただけます。

保有 株数	1,000株以上10,000株未満	10,000株以上
優待 商品	千葉県の特産品等3,000円相当 または株主優待クーポン1枚 またはTSUBASAアライアンス 共同企画特産品等3,000円相当	千葉県の特産品等6,000円相当 または株主優待クーポン2枚 またはTSUBASAアライアンス 共同企画特産品等6,000円相当

- *金融商品・サービスの優待は次の1~5のいずれか1つをお選びいただけます。
 1. 定期預金1年もの店頭表示金利(年)0.2%上乗せ(1枚につき1回限り、500万円が上限)
 2. 外国通貨両替手数料20%割引(1枚につき1回限り、割引後レートで日本円100万円相当分のご両替が上限)
 3. 遺言信託引受承諾手数料20%割引
 4. ちばぎん証券の国内上場株式売買委託手数料20%割引(1枚につき年間1万円が上限)
 5. ちばぎん総合研究所主催セミナー受講料20%割引(1枚につき1回限り、1万円が上限)

ちばぎんグループのご紹介

「グループ一体経営」の実現に向けた態勢整備の一環として、グループ会社のうち9社の本社を幕張新都心地区の「ちばぎん幕張ビル」に集約しています。



ちばぎん幕張ビル

会社名	主な業務内容
株式会社総武	千葉銀行の店舗・厚生施設の賃貸・保守・管理や、調度品・消耗品などの調達・販売を行っています。
ちばぎんキャリアサービス株式会社	千葉銀行や地元企業などへの職業紹介のほか、企業の給与・経理業務の事務代行を行っています。
ちば債権回収株式会社	債権の管理・回収業務を行っています。
ちばぎんハートフル株式会社	名刺・ゴム印の作成やダイレクトメールなどの封入・発送業務のほか、千葉銀行の事務代行業務を行っています。
ちばぎん証券株式会社	株式・債券・投資信託などの金融商品を取り扱う証券業務を行っています。
ちばぎん保証株式会社	住宅ローン・カードローンなどの保証業務のほか、売上代金・各種料金・会費などを回収する集金代行業務を行っています。
ちばぎんジェシービーカード株式会社	JCBブランドのカード業務や信用保証業務などを行っています。
ちばぎんディーシーカード株式会社	DCブランドのカード業務や信用保証業務などを行っています。
ちばぎんリース株式会社	OA機器・車両・産業機械・店舗機器・医療機器・リサイクル機器などのリース業務を行っています。
ちばぎんコンピューターサービス株式会社	ソフトウェア開発やコンピュータ機器販売、情報処理・サーバ運用に関する業務代行などを行っています。
ちばぎんキャピタル株式会社	投資事業組合（ファンド）の運営・管理業務やM&Aのアドバイザー業務、株式上場を目指す企業の新株引受けなどを行っています。
ちばぎんアセットマネジメント株式会社	投資信託の組成・運用や、豊富な経験と専門的知見に基づいた投資助言などを行っています。
株式会社ちばぎん総合研究所	経営コンサルティングや各種調査受託・研究、ビジネスマッチング業務などを行っています。
T&Iイノベーションセンター株式会社	フィンテックの調査・研究およびこれを活用した金融サービスの企画・開発などを行っています。

※  は「ちばぎん幕張ビル」に入居しています。

(2017年9月30日現在)

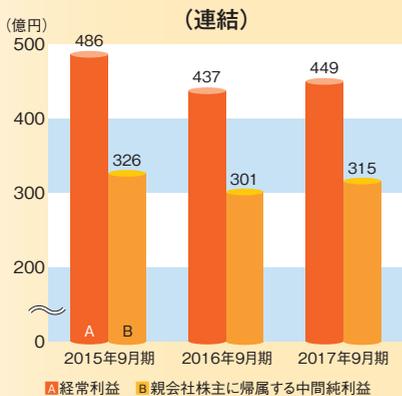
2017年9月期は、連結経常利益が前年同期比12億円増加の449億円、親会社株主に帰属する中間純利益が前年同期比14億円増加の315億円となりました。

総自己資本比率は、連結で13.36%、単体で12.80%となりました。

貸出金は、前期末比2,620億円増加の9兆5,674億円となりました。そのうち、中小企業向け貸出が前期末比1,504億円増加、住宅ローンが前期末比608億円増加しました。

預金は、個人預金の増加などにより、前期末比226億円増加し11兆5,883億円となりました。

損益の状況



自己資本比率 (パーゼルⅢ) の状況



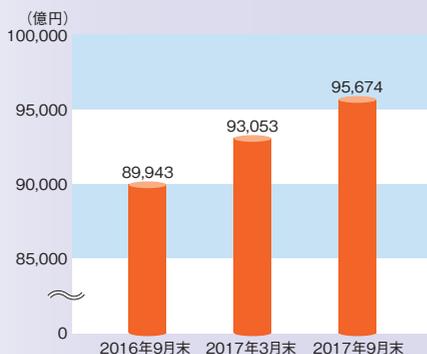
バーゼルⅢ

リーマンショック時に発生した世界的な金融危機を教訓に、金融機関の損失吸収力の強化や過度なリスクテイクの抑制を図り、金融機関の健全性を維持するために導入された新たな規制の枠組みです。金融機関に対し、投資や融資などの損失を被る恐れのある「リスク資産」に対して、自己資本を一定割合以上持つように義務づけています。

普通株式等Tier1比率

中核的自己資本(Tier1資本)のうち、より資本としての質が高く、損失吸収力が高いとされる普通株式や内部留保などによって構成される部分を普通株式等Tier1資本といい、バーゼルⅢでは、総自己資本比率やTier1比率だけでなく、普通株式等Tier1比率についても最低水準が定められています。

貸出金の状況



中小企業向け貸出・住宅ローンの状況



預金の状況



金融再生法開示債権の推移



■ 中間連結貸借対照表(要約版) (単位:百万円)

科 目	2016年9月末	2017年9月末	科 目	2016年9月末	2017年9月末
(資産の部)			(負債の部)		
現金預け金	1,578,381	1,638,105	預金	10,953,601	11,572,643
コールローン及び買入手形	68,919	75,807	譲渡性預金	443,195	455,417
買現先勘定	14,999	14,999	コールマネー及び売渡手形	417,000	50,000
買入金銭債権	21,319	21,230	売現先勘定	-	5,679
特定取引資産	181,227	106,639	債券貸借取引受入担保金	278,241	338,135
金銭の信託	36,735	29,578	特定取引負債	21,691	14,518
有価証券	2,438,296	2,299,319	借入金	227,238	296,972
貸出金	8,960,192	9,525,912	外国為替	526	658
外国為替	3,062	3,626	社債	110,623	117,598
その他資産	109,322	157,198	信託勘定借	38	102
有形固定資産	102,116	100,749	その他負債	115,296	116,981
無形固定資産	10,653	11,253	退職給付に係る負債	23,804	22,095
繰延税金資産	5,796	5,156	役員退職慰労引当金	132	99
支払承諾見返	62,157	48,267	睡眠預金払戻損失引当金	1,953	2,524
貸倒引当金	△ 33,711	△ 29,618	ポイント引当金	501	518
			特別法上の引当金	22	19
			繰延税金負債	19,231	29,195
			再評価に係る繰延税金負債	11,036	10,930
			支払承諾	62,157	48,267
			負債の部合計	12,686,293	13,082,358
			(純資産の部)		
			資本金	145,069	145,069
			資本剰余金	122,134	122,134
			利益剰余金	549,226	591,342
			自己株式	△ 47,201	△ 59,150
			株主資本合計	769,228	799,395
			その他有価証券評価差額金	96,102	115,656
			繰延ヘッジ損益	△ 24	1,566
			土地再評価差額金	10,974	10,970
			退職給付に係る調整累計額	△ 3,448	△ 2,149
			その他の包括利益累計額合計	103,604	126,045
			新株予約権	343	428
			純資産の部合計	873,176	925,868
資産の部合計	13,559,470	14,008,227	負債及び純資産の部合計	13,559,470	14,008,227

■ 中間連結損益計算書(要約版) (単位: 百万円)

科 目	(2016年4月 1日から 2016年9月30日まで)	(2017年4月 1日から 2017年9月30日まで)
	2016年9月期	2017年9月期
経常収益	115,416	118,248
資金運用収益	67,334	69,583
(うち貸出金利息)	52,832	53,350
(うち有価証券利息配当金)	12,797	13,917
信託報酬	1	1
役務取引等収益	23,960	25,788
特定取引収益	2,396	2,302
その他業務収益	2,466	2,674
その他経常収益	19,256	17,897
経常費用	71,656	73,274
資金調達費用	7,158	9,325
(うち預金利息)	1,943	2,536
役務取引等費用	8,931	8,815
その他業務費用	851	41
営業経費	44,673	44,897
その他経常費用	10,041	10,195
経常利益	43,760	44,973
特別利益	37	0
固定資産処分益	37	0
特別損失	414	248
固定資産処分損	414	193
減損損失	-	54
税金等調整前中間純利益	43,382	44,726
法人税、住民税及び事業税	9,841	12,574
法人税等調整額	3,424	625
法人税等合計	13,266	13,200
中間純利益	30,116	31,526
親会社株主に帰属する中間純利益	30,116	31,526



■ 中間貸借対照表(要約版) (単位:百万円)

科 目	2016年9月末	2017年9月末
(資産の部)		
現金預け金	1,574,679	1,633,842
コールローン	68,919	75,807
買現先勘定	14,999	14,999
買入金銭債権	11,993	11,536
特定取引資産	180,978	106,119
金銭の信託	31,235	22,878
有価証券	2,431,182	2,287,555
貸出金	8,994,365	9,567,474
外国為替	3,062	3,626
その他資産	51,153	90,054
その他の資産	51,153	90,054
有形固定資産	97,037	95,723
無形固定資産	10,458	11,078
前払年金費用	902	589
支払承諾見返	49,775	37,685
貸倒引当金	△ 23,747	△ 20,124
資産の部合計	13,496,995	13,938,848

科 目	2016年9月末	2017年9月末
(負債の部)		
預金	10,966,972	11,588,397
譲渡性預金	485,695	501,417
コールマネー	417,000	50,000
売現先勘定	-	5,679
債券貸借取引受入担保金	278,241	338,135
特定取引負債	21,691	14,518
借入金	226,202	295,340
外国為替	526	658
社債	110,623	117,598
信託勘定借	38	102
その他負債	67,612	62,770
未払法人税等	7,919	10,039
資産除去債務	217	214
その他の負債	59,475	52,516
退職給付引当金	19,051	18,878
睡眠預金払戻損失引当金	1,953	2,524
ポイント引当金	261	284
繰延税金負債	18,534	26,940
再評価に係る繰延税金負債	11,036	10,930
支払承諾	49,775	37,685
負債の部合計	12,675,218	13,071,864
(純資産の部)		
資本金	145,069	145,069
資本剰余金	122,134	122,134
資本準備金	122,134	122,134
利益剰余金	501,050	539,788
利益準備金	50,930	50,930
その他利益剰余金	450,119	488,858
固定資産圧縮積立金	85	230
別途積立金	410,971	445,971
繰越利益剰余金	39,063	42,657
自己株式	△ 47,201	△ 59,150
株主資本合計	721,052	747,841
その他有価証券評価差額金	89,430	106,177
繰延ヘッジ損益	△ 24	1,566
土地再評価差額金	10,974	10,970
評価・換算差額等合計	100,381	118,714
新株予約権	343	428
純資産の部合計	821,777	866,984
負債及び純資産の部合計	13,496,995	13,938,848

■ 中間損益計算書(要約版) (単位:百万円)

科 目	(2016年4月 1日から 2016年9月30日まで)	(2017年4月 1日から 2017年9月30日まで)
	2016年9月期	2017年9月期
経常収益	103,929	106,761
資金運用収益	69,779	72,733
(うち貸出金利息)	52,748	53,309
(うち有価証券利息配当金)	15,392	17,179
信託報酬	1	1
役務取引等収益	19,637	21,286
特定取引収益	1,643	764
その他業務収益	2,448	2,668
その他経常収益	10,419	9,305
経常費用	62,349	63,176
資金調達費用	7,149	9,306
(うち預金利息)	1,943	2,536
役務取引等費用	10,174	9,838
その他業務費用	851	41
営業経費	41,834	41,988
その他経常費用	2,339	2,002
経常利益	41,580	43,584
特別利益	31	0
特別損失	412	247
税引前中間純利益	41,199	43,337
法人税、住民税及び事業税	8,444	11,007
法人税等調整額	3,179	610
法人税等合計	11,623	11,617
中間純利益	29,575	31,719

